

平成三十年五月投句

ことさらに眼の優しくて袋角

ホトトギス夜々鳴く声の眠りかな

夏野菜を語る白い歯おすそ分け

勝利

母去にしふるさと枇杷の遠あかり

真理子

青蘆を揺らさず鷺の現れり

臆病な鹿に続けり袋角

目印の棒立ててあり文字摺草

おもむろに立ちてすり寄る袋角

大切に守られ育つ袋角

節子

卯波寄す朱の回廊や巖島

由紀子

大鳥居からの参道楠若葉

禅寺の老杉の磴上りけり

玄関に移りし北斗春の宵

通学路ねぢ花ちよんとつつかれて

光子

母の日や植ゑし野菜の名を聞きて